

意見書（案）第41号

健康保険証の復活を求める意見書

上記の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和6年12月20日

三鷹市議会議長 伊藤俊明様

提出者	三鷹市議会議員	紫野あすか
賛成者	〃	大城美幸
〃	〃	前田まい
〃	〃	栗原けんじ



## 健康保険証の復活を求める意見書

2024年12月2日以降、健康保険証の新規発行をしないこととなり、健康保険証は事実上廃止されることとなった。政府は、マイナ保険証へ一本化する方針を一気に進めようとしている。医療現場では、マイナ保険証でのトラブルが相次いでいる。顔認証ができない、別の人の薬が処方されてしまった、窓口で無効と判断され医療費の10割が請求された等の事例もある。資格確認のための手段は9とおりもあり、今後も医療現場が混乱することは明らかである。全国保険医団体連合会が10月に発表したアンケート調査の結果によれば、今年5月以降、約7割の医療機関でマイナ保険証、オンライン資格確認に関するトラブルが発生している。その対応としては、「持ち合わせていた健康保険証で資格確認した」が約8割であった。こうした混乱と不安から、マイナ保険証の利用登録を解除する人が増えている。厚生労働省の調査によれば、今年9月現在、マイナ保険証の利用率はいまだに13.87%、国家公務員の利用率も13.58%と低迷している。

また、政府のマイナ保険証推進の方針に対応できず、閉院する医療機関も増えている。全国保険医団体連合会の調査によれば、高齢者の介護施設等では、マイナ保険証の取得、管理面への不安の声も多く、94%の施設が管理できないと答えている。

自治体においても、資格確認書や資格情報のお知らせの発行などの業務の負担が生じている。

健康で豊かな生活、サービスの効率化、質の向上を目的としているはずの医療DXがかえって医療現場でトラブルとなっている。これらの問題を放置したままマイナ保険証への一本化ありきで推進することは、国民の命と医療を受ける権利を守ることができない。ここで一旦立ち止まり、状況の把握、問題点の検証をすべきである。

よって、本市議会は、政府に対し、下記の事項を要望する。

### 記

- 1 マイナンバーカードと健康保険証の一体化の状況把握、問題点の検証を行い、健康保険証の復活を検討すること。
- 2 これまでどおりマイナ保険証と健康保険証を併用させ、医療現場でのトラブルをなくすよう努めること。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和6年12月20日

三鷹市議会議長 伊藤俊明